

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292300060		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ルミエール雪浦		
所在地	西海市大瀬戸町雪浦下釜郷40-6		
自己評価作成日	令和3年11月1日	外部評価結果確定日	令和4年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

雪浦川に面した自然に囲まれた環境でベランダや居室から白鳥などの野鳥を見ることができます。利用者の癒しの場となっています。協力医療機関の医師による週1回の往診や年2回の健康診断で利用者の健康管理に努めています。行事は夏祭り、敬老会、誕生日会、クリスマス会、節分会などを行い、利用者の生活のメリハリに努めています。毎月の機関紙「ルミエールだより」、お知らせの「生活の様子」をご家族に発送し、利用者の施設での様子をお知らせしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4292300060-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和3年12月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事前に以前運営推進会議に参加されていた方へ、アンケートを取りその内容を踏まえ、近況報告や研修内容を記載し入居者様や施設に関して報告書の作成を行っている。報告書は小学校をはじめ、関係者へ郵送を行いつながりを意識している。入居者様に関する情報収集目的のアンケートを職員に実施している。内容はその入居者様と最近どのような会話をしたかや、関わり方を問うような内容を収集している。このアンケートを集約して入居者様の思いや意向を把握する1つの機会となっていると同時に、この機会を通じて入居者様全体の支援の改善に繋がっている。ルミエールはホームドクター制をとっており、ドクターは週に1回ルミエールに訪問されることから、ちょっとした入居者様の異変も報告すれば迅速に対応してくれる。また昼夜問わず連絡できる体制を整えているため、職員も安心して支援に当たることができる。更にこのホームドクターは月に2回程度様々な研修を実施してくれるため、ルミエールの職員のレベルアップに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で法人理念「一、地域福祉に貢献、一、常にご利用者の満足度の追求、一、和を持って明るい職場作り」を唱和している。	法人理念とルミエール雪浦方針があり、方針についてより強固なものにするため全員参加のルミエール会議や申し送りなどで周知を行い、職員との連携を密にし入居者様に喜んでいただくケアへ反映する体制へと整備を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、小学校との交流会や地域行事への参加について地域と意見交換しているがまだ実現できていない。	新型コロナウイルス感染のため、交流が難しい状態であるが、今後交流可能な状態になったときに迅速な対応を行うよう地域や人とのつながりを維持できる体制を整えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、外出や面会の時間制限によって実現できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、運営推進委員による集合型の会議ができないので、現在は書面会議にて活動報告し意見を頂いている。	事前にアンケートを取りその内容を踏まえ、近況報告や研修内容を記載し入居者様や施設に関して報告書の作成を行っている。報告書は小学校をはじめ、関係者へ郵送を行いつながりを意識している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加で活動報告を行い現状を伝えている。6月に保健所に出向き新型コロナウイルスワクチンの受け取り業務を行った。	市や保健所などと連携を取り、入居者様や施設の運営に関する事を相談を行える体制となっている。それ以外にも、専門医の先生などとも連携を取り、入居者様が安心して自分らしい生活を送ることができるよう実践への取り組みを確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にならないケアを職員間で日常的に注意しあっている。また、申し送りなどで支援内容の統一を図っている。さらに法人での身体拘束廃止委員会に職員が出席し、月1回のルミエールの会議で発表している。	法人の身体拘束委員会へ参加し、会議の内容を月に1度行うルミエール会議にて全職員へ落とし込みを行い意見交換や周知をし実践へと繋げている。入居者様一人一人の希望に添えるよう全職員で対策・検討・対応を行っていることが確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でサービス向上委員会を2か月に1回開いており虐待防止を含めてサービスの向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度が必要な時に支援できる体制をとれるよう学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に法人の相談員がご利用者・ご家族との面談を実施し説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し意見・要望を受け付けている。また窓越し面会時や電話で意見・要望があった時は申し送りし、その場で解決できる時は対応し、できない時は時間を頂いて対応している。	入居者様から要望があり対応が難しい場合、断るのではなく代替案で行う取り組みをしている。直近ではカトリック(教会)へ行きたいとの声に対して外出ができない状態なので施設内で雰囲気だけでも味わってもらうためにクリスマスツリーを飾り、歌を歌ったりと工夫していることが確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議・毎日の朝礼で意見や提案を聞いている。	法人では個人面談があり、施設での個人面談は特に設けず職員が話しやすい雰囲気や思ったことを言える環境づくりに心がけていることと、月に1度行っているルミエール会議で聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるよう職員一人ひとりに役割を持って働いてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月協力病院のDr.による講習会を行っている。また、資格取得の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他事業所の参加があり情報交換に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の会話の中で不安や要望を聞き信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、ホームとしてはどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに出来ることは実行し、出来ないことも検討し対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしの中で1人ひとりの出来ることをお手伝いしてもらう事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での本人の様子を毎月の「ルミエールだより」や「ホームでの様子」でお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止の為、時間制限でオンライン面会、窓越しの面会をおこなっている。	新型コロナウイルス感染のため、面会を制限しておりITの活用でオンライン面会を推奨しており、ZOOMやLINEを使用してお家族(孫まで)と交流が可能となり、関係継続支援が積極的に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	一緒にお手伝いができるようにしたり交流で きるスペースを作り会話ができるよう配慮し ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日浦グループ(法人・医療機関)でサービス が終了しても必要に応じて相談・支援ができ るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご利用者の一人ひとりの思いや、希望、意 向などを日々の生活の中で聞きだし、把握 に努めている。困難な場合は、ご利用者の 表情から読み取って対応している。	入居者様の思いやルミエールで生活を営む 上での意向の把握については、入居前の面 談等の機会に聴取するところから開始して、 日々の関わりの中で少しずつ情報収集し、 送りノートを活用して共有を図っている。ル ミエールの利用者様は地元の方が多いの で、利用して間もない利用者様は、地元の職 員が方言交じりで話した方が馴染みやすい ケースもあるとのことであった。また、意思疎 通の困難な利用者様は、事前情報を特に多 く収集したり、余暇活動時に表情等を見なが ら、興味関心がどこにあるのか察するよう にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	アセスメント・ケアプラン作成後はモニタリ ングを定期的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を日誌として記録している。ま た、変化があれば送り送りで情報の共有を している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットの担当者がモニタリングを行い、ケアマネジャーが介護計画を作成している。	介護計画の作成のプロセスについて、職員は利用者様の日々の様子を介護記録等に控えて情報収集して、ルミエール会議の場で職員同士定期的な確認を行い、利用者様の心身の状況に合った計画書になっているかどうか、最終的にケアマネジャーが確認を行っている。計画書作成において注意していることは、利用者様やご家族様の意向を第一に検討すること、心身の状況に加えてコミュニケーションの有無や、身の回りのことを自分自身でできているか等、生活面の状況も重視しているとのことであった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人ひとりの日々の暮らしぶりを日誌に記録し、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者本人やご家族のその時々状況 ^な に応じて、いろいろなサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市の職員、小学校、警察、地域代表、家族代表などに参加して頂いており周辺情報や支援に対する情報交換、協力関係をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、ご利用者本人及びご家族が希望の医療機関へ受診している。協力医以外は基本的には家族同行の受診となっているが不可能な時には職員が代行している。	ルミエールにはホームドクターがいるため、入居前にこの仕組みを説明して、ご利用者様やご家族様がこの体制に納得された上で入居開始となる。今までのところ、入居希望の方はホームドクターの存在に安心感を抱き入居開始となっている。ホームドクターによる定期的な診察以外の他科受診に関しては、主治医の指示のもと、ご家族様又は職員で対応している。ホームドクターは日中だけではなく、夜間の利用者様の熱発等の際にも指示を出してくれるため、職員にとっても安心できる存在とのことであった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日誌や申し送りで介護職・看護職の情報を共有し週1回の往診時にDr.に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーで医療機関との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りはしない方針で重度化した時や急変時は、他の施設又医療機関へ移って頂く事や対応について入居時に説明している。	現段階において、法人の方針として看取り支援は実施しておらず、重度化も含めて、利用者様の心身の状況がルミエールの適応ではない時期に差し迫ってきたら、職員やホームドクターよりご家族様へ状況の説明を行い、医療機関やグループホーム以外の福祉施設の説明を行うようにしている。このような対応を行うことについては、入居前の契約時にご家族様へ説明を行っているとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員から介護職員に急変や事故発生時の対応の仕方を習っている。また看護職員は分からないことがあると協力医に相談している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災・自然災害それぞれに避難計画を作成しそれぞれ避難訓練を計画・実施している。 食糧の備蓄も準備し、賞味期限の物は避難訓練の参考の為、試食会を行っている。	消防、防災計画に基づいて定期的な訓練を実施している。訓練には可能な限り職員が参加できるように工夫をしている。また、法人職員が地域の消防団に入団しているため、連携はとりやすい体制下にある。ルミエールは大きな河川沿いに立地しており、昨年接近した大型台風に備えて、同一法人の施設に避難を行って1泊している。今後、甚大化する自然災害に備えて、より一層の訓練の充実が課題と言える。	自然災害発生を想定した訓練について、今のところ実施にまでは至っていないとのことであった。昨年、ルミエールは大型の台風接近の際、実際に同一法人の施設に避難したとのことで、この際に何が予定通りできて、何ができなかったのか。また課題として何が残ったのか等、座学形式でも良いと思うので、分析するところから始めて訓練に繋げていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に注意し尊厳を守り、声かけている。	利用者様に対する言葉掛けは、基本的に「です」「ます」でくるようにしているが、あまりに丁寧過ぎると距離感が発生するため、ケースバイケースではあるが、ほどよく地域の方言を交えながら会話をするようにしている。日常の場面で特に意識してプライバシーの保護に取り組んでいることは、排せつや入浴の場面など肌をさらけ出す際に、部屋のドアを閉めたり身体にタオルをかけたり、基本的なことを確実に実施するという点であった。職員に対する人権の尊重やプライバシー保護に関する研修は法人全体で行っている。加えて管理者は「自分がされたり言われて嫌なことは人にしない」という基本的なことを、繰り返し職員へ伝えていたとのことであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクリエーションの参加など、声掛けでご利用者本人が決定できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、一人ひとりのペースやコンディション、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容にてカットをしていただいている また、服装選びはご利用者本人が決める事が出来るように声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食事の形態、嗜好等を把握している。また下膳ができる方にはお手伝いしてもらっている。	食事を楽しむ取組みとして、ルミエールでは可能な限り地産地消の実現に努めており、新鮮な食材の提供に取り組んでいる。また、利用者様から「〇〇を食べたい」と要望があれば、食中毒の発生しにくい季節を選定する等配慮の上、お刺身を提供したり、うな重を外注したりして、普段の食生活にアクセントを加えている。その他、ルミエール内で実施した夏祭りで綿菓子等懐かしいお菓子を提供したり、季節の野菜のつる剥きに興味関心のある利用者様は、職員と一緒に会話をしながら実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある方にも食材を変更するなど、できるだけ対応している、居室でも水分補給できるよう湯冷ましを置いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声かけして歯磨きをしていただいている できない方は毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて介助を行っている。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行い、紙パンツやパットが必要な方には使ってもらっている。	排泄支援に関しては基本的に利用者様それぞれの排泄機能を把握して、自立支援の考えの下実施している。付随してオムツの選定に関しても、大小や吸水性等を職員間で協議を重ねて決定している。排泄に関する自立支援の実例として、疾患の関係で立位保持がうまくできず、排尿の度に衣類や床が濡れてしまう利用者様への対応について、職員が情報を共有しながら、対応方法を模索している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を行い便秘対策に取り組んでいる。また、便秘薬の服用に関しては往診時に協力医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、本人の希望で日時を変えたり柔軟に対応している。気分がすぐれない時は翌日へ入浴してもらっている。	入浴の頻度は季節にもよるが、基本的に週3回を目安に行っている。予定として利用者様の入浴日は決まっているが、気分次第で入りたくない場合は、無理強いせずに翌日に変更する等、臨機応変に対応しているとのことであった。利用者様の中には汗をシャワーで流す程度で、多頻度に入浴する方もいるとのこと、入居前の生活習慣を反映した取組みと評価できる。最後に、ルミエールでは時折、入浴剤を入れて気分を変えたり、入浴時の衣類は可能な限り利用者様と一緒に選んで準備したりしているとのことであった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望に応じて休息や入眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている 自分で出来ない人には投与している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や屋外での作業など出来るだけ希望に添えるよう支援をしている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、日常的に人のいる箇所への外出はできないが、敷地内にある広いウッドデッキから大きな川が見えるため、ここで日光浴や外気浴を行い、気分転換につながっているとのことである。また、ルミエールの敷地はとても広く、畑作業が好きな利用者様と一緒に野菜作りを目標にしている、収穫後皆で食べることを楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方はご家族の了解をもらい、個々の能力に応じて管理し要望があればいつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望には出来るだけ応えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは外の景色が見えるよう大きい窓をつけ、バルコニーに出れるようになっていいる。天気の良い日にはバルコニーでくつろいでいただいている。	共用スペースは日中ほとんどの利用者様が一緒に過ごすため、特に空気の入れ替えや加湿、匂いには気を配っているとのことであった。換気は空気清浄機の設置や職員が定期的に窓の開閉を行い、加湿に関しては加湿器に加えてバスタオルを濡らして干している。また、共用スペースから川沿いにあるウッドデッキへ出ることが出来るため、利用者様はここから見える風景により、四季の移ろいを感じる事ができる。ルミエール全体的に至るところに採光が施されていて、明るくて清潔感を感じるグループホームであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを見たり一緒に作業が出来たり、廊下に椅子を置き外を眺めながらおしゃべりできるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置などを今までと変わらないようにし、生活環境をなるべく変えないように配慮している。	居室への持ち込みは危険が及ばない限り、特に規制はなく使い慣れた家具等持ち込むことは可能である。また、ルミエールではオゾン発生装置を6台導入していて、居室にてポータブルトイレを使用する等、生活臭が特に考えられる居室においても、視察時に感じることはなかった。毎日、利用者様や、職員と一緒に居室の掃除をしているため、全居室について清潔な印象を覚えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで移動が安易なように工夫しているが転倒などの恐れがある方は見守りを徹底している。		